

『改訂2版 集中講義 生化学』正誤表

『改訂2版 集中講義 生化学』(2017年4月1日第2版第1刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

2017年9月20日
(メジカルビュー社編集部)

頁	該当箇所	誤	正
50	図2 タイトル	テロメラーゼの反応	繊毛虫(Tetrahymena)テロメラーゼの反応
50	図2 一番上の図		 赤いRNA分子の「テロメアDNA」が「テロメラーゼRNA」となる。
66	本文最終行	…セリン, プロリン, アルギニンは6通りの	…セリン, ロイシン , アルギニンは6通りの
196	本文下欄外	p.199 QUESTION 正解	p.203 QUESTION 正解(p.204へ移動)、p.200 にある正解が入る。
197	表1	鉄(Fe) (Feイオン)の列にある ドーバミンβヒドロキシラーゼ を銅(Cu)の列へ移動	
200	本文下欄外	p.195 QUESTION 正解	現在ある正解はp.196 へ、p.204 にある正解が入る
204	本文下欄外	p.203 QUESTION 正解	p.199 QUESTION 正解(p.200へ移動)、p.196にある正解が入る。
212	模範解答2行目	…ピルビン酸は乳酸となり2分子の乳酸, 2分子のATPとなる。	…ピルビン酸は乳酸にまで代謝され結果的にグルコースは2分子の乳酸と2分子のATPになる。
226	図1 ここがPOINT	マトリックス側に汲みあげられたプロトン(H ⁺)はATPシンターゼによって内腔側に戻る。そのときにATPが生じる。	膜間腔側に汲みあげられたプロトン(H ⁺)はATPシンターゼによってマトリックス側に戻る。そのときにATPが生じる。
233	図5 ここがPOINT 上から3行目	維持に働く筋肉では	維持に働く。筋肉では
236	下から14行目	…これらは共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)により、	…これらの共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)は
237	図5 ここがPOINT 下から2行目	逆の脱リン酸化はグルカゴンに	逆のリン酸化はグルカゴンに(脱をトル)
265	模範解答3行目	高カロリー食を食べ続けると、…	過剰に糖分を摂取すると、…
268	8行目	コレステロールは胆汁酸, ステロイドホルモン, ビタミンDに変換される。	コレステロールは胆汁酸, ステロイドホルモンに変換される。(ビタミンDをトル)
269	QUESTION(2)	b MG-CoAリアーゼ	b HMG-CoAリアーゼ
288	左の欄外 本文1 行目	ファネシルニリン酸は…	ファルネシルニリン酸は…
311	下から8行目	…皮膚表面の角質細胞質の成分で、…	…皮膚表面の角質細胞間質の成分で、…
311	図4 タイトル	コレステロール硫酸の脱硫酸化反応(a)と皮膚表面の角質細胞質(b)	コレステロール硫酸の脱硫酸化反応(a)と皮膚表面の角質細胞間質(b)
378	左の欄外「代表的な調節」 ①解糖系 4行目	AMPで阻害され, クエン酸で活性化される。	AMPで活性化され, クエン酸で阻害される。